

市長・市民復興対談 概要（分野別）

市長・市民復興対談の概要を復興計画の分野別計画の体系に沿って、整理しました。

1 市民生活の再生

(1) 住宅再建・生活再建の支援

- 仮設住宅の建設など、もう少し早い対応ができなかったのかと思う。（若い世代）
- 自分の宅地の地盤強化や補修は、自分でしなければいけないが、費用がどのくらいかかるかが知りたい。業者の話は、千差万別で、高かったり安かったり、適正価格がわからない。建屋自体の地盤は補強をしていたが、周りの宅地が沈下し、宅地の補修にどれくらいかかるのか。（黒部川）

(2) 医療・保健・福祉の充実

特に意見なし。

(3) 放射性物質に対する不安解消・安全確保

- 旭では、広報無線で、放射能のレベルのお知らせをしていた。（くすター）
- 若い、子どもを持っている人が放射能を心配している。九州の方に引っ越すという話も出ている。政府の放射能の発表などもあるが、食べ物、公園、運動場など、調査結果を広報で詳しく知らせしてほしい。（小野川）

2 社会生活基盤の再生

(1) 道路・河川の復旧

- 小見、竹之内から小見川に向かう県道沿いの家の屋根がかなり落ちている。大きなトラクター等の通行による揺れが震災前よりひどいので、徐々に直してもらいたい。府馬地区も県道沿いは大きな揺れを感じる。テレビも映らなくなる。(くすター)
- 堤防を早く直してもらいたい。(小見川工業団地)
- 堤防にはびっくりした。最近も新潟の洪水があったが、あんなのがきたら堤防がひとたまりもない。この地域は海拔0mの地域であり、避難場所も海拔0mでそのような時はどうすればいいのか。(与田浦)

(2) 上下水道の復旧

- 下水道、上水道を埋めたところがかかなり動いた。配管を地下に埋設する場合は、配管の強度だけでなく埋める対策も考慮してもらいたい。(黒部川)

(3) 各種公共施設の復旧

- 栗源中学校体育館の早期復旧、栗源公民館の再整備。(栗源観光農業協会)

3 地域経済・産業の再生

(1) 農業の再建支援

- 新田地域の水田で大きな被害が発生し、用排水施設が破損し、田植えができない状況であり、来年以降も心配。復旧にはお金が必要なため、離農の話が出ている。耕作放棄地となることが心配。(若い世代)
- 肉牛について騒がれている。香取管内の検査結果は問題ないが、価格が半値・1/3など大幅に下落。肉牛農家の破綻が心配。(若い世代)
- グリーンツーリズムが栗源などで成功していると思うが、佐原の水の郷の下の田んぼでの体験もいいのではないかと。佐倉のチューリップ祭りでも植えさせて、参加させている。そういうゾーンがあってもいいと思う。(小野川)
- 道の駅栗源では、週1回イベントを開催し、集客を図っている。やはり来てもらうことが大切である。(栗源観光農業協会)

(2) 放射性物質汚染による出荷制限 や風評被害対策

- セシウムの中で、不検出という話があったが、一般の人は知っているのか。農産物が主なものなので、広報で知らせてもらいたい。(くすター)
- ハウレンソウなどの薬物やさつまいもなどに、風評被害による価格下落等の影響がある。(栗源観光農業協会)

(3) 商工業の再建支援・商工業振興

- 震災後、緊縮ムードで商店街は毎日が定休日状態だった。零細業者の資金対策があれば広報で知らせてもらいたい。(くすター)

(4) 観光の振興・情報発信

- 佐原青年会議所は、復興の冠をつけ通常どおり事業を開催。千葉県全域が集まる大会も9月に開催予定。その中で復興関連も実施予定。(若い世代)
- 観光客が、最近は団体客ではなく、個人のアベックが多くなっている。案内板等をわかりやすく付けてもらいたい。(小野川)
- 観光について、なかなか戻らない。まずバスがあまり入らない。これは佐原の震災でやられたというイメージが強いのではないかと。少しマスコミ、メディアを使った情報発信が必要ではないかと。(小野川)
- 震災前から観光入込が落ちているのではと感じていた。観光に求めるものが変わってきているのかなと思っていた。新しい佐原の観光のあり方、売り方を考えていかなければ

れば増えないのではないか。イメージづくり、売り方を行政と市民が一体となって研究すべきと思う。（小野川）

- 埼玉県の人で、以前、観光案内をした人から電話があり、今、佐原に行ってもいいのか。気の毒で行けない。ということであった。復興に向け観光宣伝をしたほうがいいと思う。（小野川）
- 10月から伊能忠敬記念館の駐車場が、駐車料金がかかるという話がある。地元も了解はしているが、どこの観光地の駐車場でもそうだが、商店街や山車会館、記念館利用者特典など考えているのか。10月に向けて、観光客へのサービスの点を観光課が中心になり手を伸ばしてもらいたい。（小野川）
- 今後について、歴史的町並みは磨きをかけ、横宿通りのあるものを活かし、3丁目の夕日みたいな時代の雰囲気を作っていくことで、いろいろな時代にタイムスリップできるようなまちにしてはどうか。北口は近未来、町並み地区、横宿地区などテーマ性をまったまちにしていくのはどうか。（小野川）
- 香取市として、佐原、小見川、山田、栗源が連携して、地域全体で一日過ごせるような観光にしてもらいたい。佐原だけでは、せいぜい半日の滞在であるので、連携してやってもらいたい。（小野川）
- 香取市の農産物が安全であるというPRをしながら、東京からの観光客を呼んでもらいたい。（小野川）
- 佐原のまち中心部と周りを繋ぐ方法として、畑を借りて、春にサツマイモを植えて夏は草取り、秋は収穫など、宿泊して観光もしてもらおうようなシステムができれば地域と結びつくと思う。（小野川）
- 佐原に滞在してもらっても夜が非常に寂しい。盆のときにライトアップがあったが、とてもきれいだった。夜を明るくして、佐原の夜もきれいということになれば宿泊もということになると思う。（小野川）
- 伊能忠敬の大河ドラマ化キャンペーンをやっている。18年が伊能忠敬没200年祭になるので、7年かけてやっていきたいと思う。（小野川）

(5) 歴史的町並みの再建

- 行政の協力を得て、町並みの一日も早い復興が一番いいと思う。（小野川）

4 災害に強いまちづくり

(1) 防災拠点の復旧・整備

○栗源分遣所の早期の復旧、再整備（栗源観光農業協会）

(2) 防災体制の強化

- 役場などに安心な水（自家水道のようなもの）があれば、何かのときに使える。（くすター）
- 家に井戸があり、検査をして、飲める水だが、停電するとポンプが使えない。地区に小さな発電機があれば、給水車がくるまでの対応ができる。（くすター）
- 佐原の避難場所にボランティアで行ったが、板の間にじかでは大変で、寒くないような畳やシートなどの備蓄などの対策をしてもらいたい。（くすター）
- 葛飾区では、区長と言ってもわからないので、腕章をつけて、救護などの活動をしてきた。いざというときわかりやすい。地域が動かなければならないので、地域の中でそういうものを作っておいたほうがいい。（くすター）
- 防災無線が、聞こえない。個別受信機も買っておけばよかったと思った。（くすター）
- 地区に災害物資のコンテナをつくり、順次増やし、備蓄品の期限切れに併せ防災訓練をやるのはどうか。まちづくり協議会も立ち上がっているのだから、そこでやってもらえばいい。（くすター）
- 防災無線の放送がほとんど聞こえなかった。（小見川工業団地）
- 水は、小見川事務所で配布をしていたが、長時間並ぶ状況で、一人暮らしの老人に配るだけの余裕がなかった（黒部川）
- 消防用水を緊急時のときに活用できるような方法がとれ、一時的にトイレなどに使えないか。（黒部川）
- 被災の状況のお知らせが行政の方から1日半くらいなかったのだから、不安であった。現状がわからなかったのだから、いろいろな方法で広報をしてもらいたかった。（小野川）
- 停電、水が出ず、ラーメンも食べられない。即席のものも売り切れの状態だった。市の方で発電の施設を持ってないのか。（小野川）
- 地震の後、車の通行がかなりあったのだから、カラーコーンを持っていき安全を確保しましたが、そういったものの備蓄が必要だと感じた。（小野川）
- 防災行政無線の聞こえる地域と聞こえない地域の差が激しい。特に町の中は聞こえない。（小野川）
- 戸別受信機の設置を早く進めてほしい。（小野川）
- 今、防災メールということで、メールで受信できるので、是非登録すると思う。水の時などとても便利だった。（小野川）
- 水について湖東地区で、当初給水がなかった。地域の区長が要請したところ配慮してもらった。できれば最初から設置してほしかった。（与田浦）

- 今、緊急避難場所が、小中学校になっていると思うが、そこも0mの地域である。湖東小学校などは、液状化で避難場所にもいけないということもある。今後は避難場所についても見直しをしてもらいたい。(与田浦)
- 避難場所は、湖東小も新島小も避難場所になっているが、実際に震災が起きたとき、新島小に行ったが、何の対応もなかった。備蓄もあるが、何が備蓄されていて、鍵は誰が持っているのか、右往左往して何の役にも立たなかった。その辺の確認をしてもらいたい。(与田浦)
- 防災無線について、最初は聞こえるが、だんだん重なって聞こえなくなってしまう。あれをラジオで聞くことはできないのか。(与田浦)
- みんな携帯を持っているので、メールで送ってもらったほうがいい。(与田浦)

(3) 再生可能エネルギーの利活用

特に意見なし

(その他意見)

- 工業団地連絡協議会で、一番気になるのは電気である。計画停電はいいが、前もって、前日には知らせてもらいたい。(小見川工業団地)
- 阪神大震災の時の教訓で、お風呂に水を貯めるのは、震度6、7になると風呂が動いてしまい、水道管やガス管を引きちぎり、住めなくなる。水は貯めても1/3、1/4以下がいい。(黒部川)
- おおくすニュータウンは、町で販売したものであるが、盛土したところが液状化している。今後、市で分譲することがあれば、水田などは避けた方がよい。(くすター)
- 断水は、3軒に1軒くらい井戸が掘ってあり、それで対応できた。香取市は復旧等の対応が良かった。感謝している。3日、4日の断水はやむを得ない。(黒部川)
- 黒部川をきれいにしようと活動しているが、下水道に接続しないで、油が流れてくるところがある。下水道への接続を推進して、きれいにしてもらいたい。(黒部川)
- 以前から小野川をもっときれいな川にしたいと思っていた。
小野川は、川底の砂が細かいために汚く見えるという話を聞いているが、この震災で落ちた明治の瓦は吸水性もありコケが生えたりするので、それを活かしてきれいにできないかなと思う。砂が舞い上がらないように小石を置けばいいのかなという発想で、落ちた古い瓦が再生して川をきれいにしてくれたらと思った。(小野川)
- 昔は、小野川には、川藻がぎっしり生えていた。小野川の上流は田んぼなので、泥が流れてきてしまう。これをきれいにするには、川藻など自然の工法できれいにするほうがいいと思う。(小野川)
- 与倉、大崎方面に行き、小野川の上流の様子を見るが、凄く濁っていて透きとおっていることはまずない。その水が常に小野川に流れているので、上流の合併浄化槽の普及をお願いしたい。(小野川)